

機構」にかける意気込みを熱く語ってくださいました。

その後、第二部として、十周年記念のレセプションがおこなわれ、感謝状の贈呈・就職先企業紹介・就職者紹介とこれまでの功績をたたえ、またこれから先への心構えを一同強く感じた時間でした。

締めくくりとして懇親会が催され、前記の工賃倍増計画事業に関わっておられる作業所さんのケータリングを活用した立食パーティーを盛大におこないました。皆さん新旧をおかず、歓談や将来の話を大いに語りあうなど、時間があつという間にオーバーするほどでした。セミナーから長時間の催しとなりましたが、まだまだ名残が惜しいなか散会となり、「また明日早起きして仕事に行くぞ！」などいいながら会場を後にする姿も見られました。

もう次の十年はスタートしています。また十年先で、よ

り一層盛大なイベントになることを今から夢見て日々頑張りたいものですね。

「家族支援プロジェクト

ファシリテーター養成

講座」に参加して

去る七月八日～九日、全日本

本育成会の主催する西日本の「家族支援プロジェクト」が、アシリテーター養成講座」が、広島県手をつなぐ育成会会館にて開催され、事務局から参加してきました。この家族支援プロジェクトは、家族支援という名称からレスパイト・ケアのような何か「家族がほつとできるサービス」を考える取り組みのように捉えられる方もいるようですが、障害のある本人だけでなく、家族がどう生きるのか障害のある子どものいる『私の人生』を子どもとの距離も含め、見つめなおして考えてみましょうというワークショップです。

今回の講座参加者は沖縄県から石川県まで、ほとんどが初対面の人たちが四十一名。まずは、自分が他者になって

自己紹介をするというワーク「他己紹介」をしました。始まるまでは、どんなことをさせられるのかなど、かなり緊張していたのですが、やりだすと必死・・！「人の話をしっかりと聴く」「自分のことを客観的に聴く」ことを学びながら、会場内は一気に和やかな熱気ある雰囲気になりました。

ワークショップの身をあまりお伝えすると参加していただく時の楽しみが減ってしまったので控えますが、「親子関係チェックシート」や「あなたのプラン作り」など、家族が次の一歩を踏み出すためのワークが用意されています。同じグループになった小学校6年生の障害のある子どもさんを持つお母さんが話されていた。「県育成に費用は全部もつから、参加してくれといわ

れて広島まで来ました。初めて一泊二日子どもと離れての一人旅です。県育成に背中をおされて、この講座に参加したことが、私の第一歩です」

次の一歩のきっかけは、普段の暮らしの中もあると思いますが、それに気づくことの大切さを学ばせてもらいました。ファシリテーターという耳慣れない言葉には、皆さん戸惑われ、もつとわかりやすい言葉はないのか、司会・進行とどう違うのかといった声が数多くあるそうですが、適当な

日本語訳が見つからないので言葉にはこだわらず、養成講座を終了された方は、各地元でのワークショップ開催の進捗役になっていただき仲間の皆さんと学びあう場をたくさん作ってくださいとのことです。今年度の大阪市育成会大会（十一月八日）では、この「家族支援プロジェクト」を取り上げる予定です。

【事務局総務部長 平中 葉】

学齢期部会

支援センター「さくら」と

(株)WEST 楽園

(パラダイス) 八尾

見学会報告

学齢期部会の活動として、二箇所の施設見学を行いました。

六月二十九日には支援センター「さくら」の見学会に会員二十一名が参加しました。

支援センター「さくら」は、昭和四十五年「授産施設」大東園として開設され、平成十九年に支援センター「さくら」就労移行支援事業」にかわり、それ以降二年間の利用期間の中でいかに効率よく支援できるのかをテーマにいろいろと工夫をされた個別支援プログラムを実行され現在にいたります。

広大な敷地内の通勤寮での生活支援・短期入所事業やスワンカフェ&スワンベーカリーの営業また製造作業や、ふ